

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200248		
法人名	社会福祉法人 怡土福祉会		
事業所名	グループホーム 今宿		
所在地	〒819-0161 福岡県福岡市西区今宿東1丁目30番52号 Tel 092-806-2239		
自己評価作成日	平成31年01月14日	評価結果確定日	平成31年03月09日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成31年02月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者がしたい事、出来ることを一緒に探し、入居者のペースで生活しながら実現する。 ・関連病院、様々な関連施設があり、状態の変化に合わせて継続した支援ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>福岡市の西に位置する学研都市今宿の閑静な住宅地に2年前に開設した、2ユニットのグループホームである。「地域の中で私らしく」の理念の下、明るく優しい職員が笑顔で利用者に寄り添い、個々の意向を尊重した自由な暮らしを支えている。畑で収穫した季節の野菜を使い、職員が交代で作る美味しい食事を利用者職員と一緒に食べる家庭的な食事の時間を大切に、希望に沿った外出支援、系列病院、施設との連携、看護師の配置、ほぼ全員が介護福祉士で経験豊富なスキルの高い介護職員によるサービスの提供で、利用者の状態が改善し、楽しそうな利用者を見守る家族からは、「良いグループホームに巡り合った」と、感謝の言葉が寄せられている。2階の地域交流スペースを活かし、地域密着型事業所として今後の展開が楽しみな、「グループホーム 今宿」である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11.12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とフロア内に掲示しており、いつでも確認が出来るようにしている。	開設時に職員が話し合って作った理念、「地域の中で私らしく」を、利用者に一文字ずつ書いてもらい、リビングの見やすい場所に掲示している。職員は、理念を常に意識して、利用者一人ひとりの思いを大切に、それぞれのペースで自分らしく生活できるよう支援に取り組んでいる。	理念を達成するためにユニット毎に目標を立て、目標実現の為に職員が個人の目標を立て、定期的に振り返る機会を設ける等、理念の実践に向けた具体的な取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の教会などのボランティアや地域の事業所ネットワークの会議に参加しており、日々の散歩や外出時などで交流を図っている。	近くの教会の方々の訪問を受けたり、散歩時に立ち寄りなどの近所付き合いをしている。系列施設の夏祭りや餅つきに参加し、交流を楽しんでいる。町内会に加入し、地域代表から情報提供を受け、近隣の散歩や買い物時に挨拶を交わす等、少しずつ交流を広げている。	設備の整った2階の地域交流室を地域に開放し、地域住民が気軽に立ち寄りることのできる開かれたホームを目指す取り組みと、保育園、幼稚園、小・中学校等、次世代との交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流室の貸し出しを行っている。運営推進会議や事業所ネットワークのパンフレットにも掲載し、案内している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の方や家族、民生委員やいきいきセンターの方をお呼びし、2か月間の活動内容を発表し、参加者の方より様々な意見を貰いサービス向上に努めている。	会議は2ヶ月毎に年6回開催し、利用者の状況、事故、感染対策、行事や取り組み、職員研修、地域交流についての報告を行い、参加委員からは、質問や要望、情報提供等を受け、それらの意見をホーム運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。	参加委員を増員し、幅広く意見や情報を収集して、ホームの運営だけでなく地域の課題についても知恵を出し合い、子どもから高齢者まで、皆が安心して暮らすことのできる地域作りへの取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の来所があった時に情報交換を行っている。必要時には文書の送付やメールでのやり取りを行っている	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状や取り組み等を説明し、情報提供を受ける等、協力関係を築いている。また、空き状況や事故について行政担当窓口へ報告している。介護事業所ネットワーク会議に参加して情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等により知識を深め、身体拘束を行わないケアを行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、年2回以上の研修を行い、禁止の対象となる具体的な行為を事例を挙げて確認している。スピーチロックを含め身体拘束が利用者にも与える影響について、職員一人ひとりが理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者との契約時に説明を行い、理解を得られるように配慮している。 職員間では見過ごさないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に説明を行っている。また、利用されている方はいない。 職員には研修案内をだし、対応できるように促している	現在、権利擁護の制度を利用している方はいないが、内部研修の中で制度について学ぶ機会を設け、日常生活自立支援事業や成年後見制度の重要性を職員一人ひとりが理解している。資料やパンフレットを用意し、必要時には制度を活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて、利用者家族の方には十分な説明を行い、納得、理解されるように図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置しており、意見や要望があった場合には職員間で話し合うようにしている。	日常生活の中で利用者の意見や要望を聴き取り、家族については、運営推進会議や面会等の機会に家族とのコミュニケーションに努め、意見や要望、心配な事等を聴き取り、職員間で検討し、利用者や家族の意向を反映できるよう努めている。	行事を兼ねた家族交流会を開催し、ホームと家族、家族同士が交流できる機会を作り、意見や要望が気軽に話し合える関係作りを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や日々の業務の中で意見や提案があった際は反映できるように努めている。	月1回、17時半から全体会議、その後フロア会議を開催している。研修やカンファレンスを兼ねて行い、話し易い雰囲気の中で意見や提案が活発に出される充実した会議である。出された意見は、ホーム運営に速やかに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員といつでも意見交換が出来る環境を作っている。 外部研修などの参加を促しスキルアップが出来るように努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は年齢や性別では判断していない。経験や個人の持つ能力を重視している。	職員の休みがしっかりと取れる環境であり、加えて処遇の改善に努め、開設して2年が経とうとしているが、退職者が出ていない。ほぼ全員が介護福祉士であり、経験の長い職員が多く、互いの経験を活かし合い、スキルの高い安定した介護サービスを提供している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者、職員に対する人権教育や啓発活動など学習するように努めていく。	利用者の人権を尊重した介護サービスについて、職員会議や研修の中で学ぶ機会を設け、特に言葉遣いや対応の仕方に注意して、利用者が安心して暮らすことが出来るよう取り組んでいる。また、常に理念を意識して、利用者一人ひとりの「私らしく」を大切にされた支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修への参加の募集を行っている。 内外研修時には報告書を作成してもらい会議で報告してもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	校区の事業所ネットワークに参加している。 会議に参加し各事業所の方と交流しており、様々な意見交換にてサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方と話し、その中で不安や要望を聞きとり、信頼関係を築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方と話し、安心して要望などを訴えられる関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合いを行い、現状でより良いサービスが受けれるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事を行ったり、制作を行ったりと利用者様との関わりを大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況の報告を行うことで、状況の把握をして頂き、無理のない範囲での協力を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の方から情報を頂き、関係が途切れないように支援している。	利用者の家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、面会時にはゆっくり寛げる雰囲気作りを心掛け、又来てもらえるよう配慮している。また、利用者の行きたい所や会いたい人等を聞き取り、思いの実現に取り組み、馴染みの関係が継続出来るように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	強制はせずにレクリエーションや散歩等の参加を声かけを行っている。 各自が過ごしたい様に過ごせるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも何かあれば相談に乗る事を家族の方には話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人への意向確認は行うとともに、ご家族様にも意向確認を行い、把握に努めている。ご家族様には本人様の趣向を聞き、暮らし方の希望に沿えるように援助している	現在は、思いを表す事の出来る利用者が多く、職員は利用者とのコミュニケーションを取りながら把握に努めている。日中の過ごし方も、レクリエーション等への参加を強制する事はなく、利用者一人ひとりの希望に沿って、自由に過ごしてもらっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に各利用者様の生活歴などを聞き取り、各利用者への理解、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを記録に残す事やケアプランに反映することで各自の現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族希望を優先し、各関係者との話し合いの中で現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族の意見や要望を聞き取り、担当職員がケアプランを作成している。カンファレンスの中で検討し、全職員からの意見を集約して、利用者本位の介護計画を半年毎に作成し、3ヶ月毎に見直している。また、利用者の状態変化があれば、その都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記入し、共有している。モニタリングなどを活用し介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向やニーズに沿ったサービスや支援の提供に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族の希望や要望があれば支援できるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	関連病院がある事を伝え、本人や家族の希望する病院へ行ってもらっている。	利用者や家族の希望を優先し、主治医を決めてもらっている。病院受診については家族対応でお願いしている。系列医療機関を希望する利用者も多く、病院と連携しながら適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時や気づきがあった時はその都度、連絡・相談を行うようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、利用者の情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行っており、家族の要望があった際は関連施設と連携し支援していく。	急変時の対応等については、契約時に意向を確認し、同意を得ている。現在は、そのような状態の利用者はいないが、利用者の状態が変わった時には意向を再確認し、家族の希望があれば、看取りの支援に取り組むことを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応のマニュアル化を行っている。また、内容の周知に努めている。 定期的に講習を行い、対応が出来る体制を作っている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を開催し、災害時にも対応できるようにしている。 又、運営推進会議で地域の協力を呼び掛けている。	避難訓練は、昼夜を想定して年2回実施し、通報装置や消火器の使い方を確認している。また、非常時に備えて食材(3日分)を確保し、自家発電機の用意もある。災害時、地域の要支援者5名程度の受け入れが可能であることを自治会長に伝えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いなどに注意し、利用者の方の尊厳を損ねない様に対応している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人のペースでの暮らしを大切に支援している。入浴や排泄の場面では、特に利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応を行い、利用者の尊厳を損ねないように注意して取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で自己決定を促し、本人の希望を聞き出せるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースに合わせて過ごせるように、希望に沿った支援が出来るように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿えるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者が、出来る範囲で食事の準備や配膳などを手伝って頂いている。	法人内管理栄養士による献立に基づき、菜園で採れた旬の野菜を使って職員が交代で作る美味しい食事を提供している。利用者と職員が同じ食事を一緒に食べる家庭的な食事の時間である。蒭の皮剥きや土筆の袴取り、干し柿作り等、利用者の力に合わせて一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の栄養士の作成した献立を参考にしながら献立を作っている。 食事量のチェックも行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。義歯や磨き残しのある方は出来ないところを介助にて支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ、誘導を行うことでトイレで排泄が出来るように支援している。	トイレで排泄することを基本とし、職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを活かした声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間も自分でトイレに行く方については、その時にパット交換したり、失禁の無い人は、朝まで起こさずゆっくり眠ってもらう等、個々に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品やオリゴ糖を使用し、運動量を増やし、必要時は腹部マッサージなどを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、現在の所、不満は聞かれていない。拒否や外出等があった場合は個々に対応している。	利用者の気分や体調に配慮しながら、基本的には週3回入ってもらっているが希望があれば他の日の入浴も可能である。柚子湯や香りの良い入浴剤を使用する等、入浴を楽しめるよう工夫している。また、重度化しても安全に入浴できるようリフト浴の設備もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や寝具の調整を行い、各自の状況に応じて安眠が出来るように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を各個人のカーデックスに挟んでおり、いつでも確認の出来るようにしている。 日付を記入し1日分を各個人の薬BOXに入れ誤薬のないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業や食事の準備など役割を見つけ、散歩やレクリエーションなどで気分転換を図ってもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に行事として外出支援は行っている。又、個人的な付き合いなどで外出される方もおられる。日常的には散歩等を好まれる利用者様も居られるため、散歩として外出は行っている。	天気の良い日には日常的に近隣の散歩に出かけ、畑仕事や買い物等、利用者の気分転換に取り組んでいる。また、野球観戦やドライブ、季節毎の花見、系列施設の行事参加、外食等、普段行けないような場所へも積極的に出かけられるよう支援に努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には少額の金銭管理をして頂いている。買い物の際には出来るだけご自身で支払いが出来るように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればやり取りが出来るように支援している。また携帯電話をお持ちの利用者も居る。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに利用者の作品や写真を掲示している。共用部は定期的に掃除を行い清潔にし、室温管理を行い心地よく過ごせるように努めている。	利用者と職員が制作した貼り絵等の作品や利用者の書いた習字の作品、利用者の笑顔の写真を掲示し、季節感を大切にしたり、明るく温かな雰囲気のある共用空間である。室内は、清掃が行き届き、温・湿度の管理もこまめに行い、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにあるソファや椅子を痔自由に使用し、好きなように過ごしていただけるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方に、ご自宅で使われていた馴染みの物を持ってきて頂くように依頼している。テレビなどの家具は好きなように配置して頂き、心地よく過ごせるように工夫している。	利用者、家族と相談しながら、利用者が使っていた筆筒や寝具、身の回りの使い慣れた物、家族の写真等、大切な物を持ち込んでもらい、身近に置く事で、利用者が安心して生活出来るよう配慮している。また、明るく広い室内で、清潔が保たれ、気持ちよく過ごす事のできる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存機能や身体機能に合わせ、自立した生活が送れるように援助している。		